収録カードの国旗一覧

旗の由来の文章は、Wikipediaの記事をもとに書き直してまとめたものです（CC BY-SA 4.0）。元記事の一覧は https://mikeron-games.com/en/games/flag_museum/credits/
※はカードにはない旗（系譜やコラムで出てくる旗）

1. 十字の旗 — キリスト教の国

十字はキリスト教の印である。**デンマーク**の赤地に白い十字の旗は、1219年の戦いのときに空から降ってきたという言い伝えがあり、今も使われている国旗の中では世界でいちばん古いとされる。十字の縦の棒を左に寄せた形はデンマークから北欧の国々に広まった。**グリーンランド**だけは1985年に、十字の案を投票で退けて太陽の旗を選んだ。**イングランド**の赤い十字と**スコットランド**の白い斜めの十字は、それぞれの国を守る聖人の印で、1606年に二つを重ね、1801年に**アイルランド**の赤い斜めの十字を足して今の**イギリス**の旗ができた。**スイス**の白い十字は、昔の兵士が服につけていた目印から生まれた。**ジャマイカ**の金の斜め十字は「聖アンドルーの十字架」といって、斜めの十字も十字架の一種である。


デンマーク


スウェーデン


ノルウェー


フィンランド


アイスランド


グリーンランド


イングランド（1600）


スコットランド（1600）


イギリス（1750）


イギリス（1920）


イギリス


ジョージア


ギリシャ


スイス


ジャマイカ

2. 左上にイギリスの旗 — 植民地時代のなごり

イギリスの植民地は、左上にイギリスの旗を置き、右側に自分の印を描く旗を使った。植民地だった**インド**は、イギリスの旗の真ん中に「インドの星」という勲章を置いていた。同じく植民地だった**オーストラリア**と**ニュージーランド**は、独立後もこの形を残し、南半球の空に見える南十字星を描いている。ニュージーランドでは2016年に旗を変えるかどうかの国民投票があり、57%が「今のまま」を選んだ。**パプアニューギニア**も南十字星を描き、15歳の少女の案が選ばれた。**カナダ**は1965年に、イギリスともフランスとも違うカエデの葉の旗に替えた。


イギリス領インド帝国（1900）


オーストラリア


ニュージーランド


パプアニューギニア


カナダ

3. 星条旗の子どもたち

アメリカの最初の旗（1776年）は、13本の縞の左上にイギリスの旗を置いたものだった。1777年に星に替わり、州が増えるたびに星が増えて今は50になった。「縞と州の数だけの星」の形は、独立した国々が旗を作るときの手本になった。**リベリア**は、アメリカの植民協会が自由になった黒人の人々をアフリカに移住させて作った国で、国名は自由（リバティ）から、首都モンロビアはモンロー大統領から来ていて、旗もアメリカの旗をまねた。11本の縞は独立宣言に署名した11人を表す。**キューバ**の旗は1849年にアメリカで作られ、一つの星は独立を表す。**プエルトリコ**の旗はキューバの旗を手本に、1895年に独立運動家たちがスペインと戦うキューバとの連帯を示すため、縞と三角の色を入れ替えて作った。**ブラジル**でも1889年にアメリカの旗をまねた緑と黄の旗が作られたが、「よその国の旗に似すぎている」として4日で取り下げられた。


アメリカ（1776）


アメリカ（1944）


アメリカ


リベリア


キューバ


プエルトリコ


ブラジル（1889年11月）※

4. 三日月と星 — イスラムの国々

赤地に白い三日月と星は、**オスマン帝国**（昔のトルコ）が国旗に定め、**トルコ**が受け継いだ。帝国に属していた**チュニジア**や**リビア**も三日月と星を選び、帝国と関係のない**パキスタン**や**マレーシア**も「イスラムの象徴」として採り入れた。**パキスタン**の旗の左の白い帯はイスラム教徒でない人々を表し、「少数の人の権利も守る」という約束が込められている。緑もイスラムの色で、**ムガル帝国**、**サウジアラビア**、カダフィ時代の**リビア**、**東トルキスタン共和国**、**サファヴィー朝**が緑である。**東トルキスタン共和国**は、ウイグル人などイスラム教徒の人々が中国の西部に作った国で、1949年に中国に組み込まれて消えた。**サファヴィー朝**から続く**イラン**は、イラクのとなりだがアラブの国ではなく、ペルシャ語を話すペルシャ人の国だ。


オスマン帝国（1683）


トルコ


チュニジア


リビア


アルジェリア


パキスタン


マレーシア


ムガル帝国（1700）


サウジアラビア


社会主義人民リビア・アラブ国（1980）


東トルキスタン共和国（1945）


サファヴィー朝（1600）


パフレヴィー朝ペルシャ帝国（1975）

イラン

トルクメニスタン

ウズベキスタン

アフガニスタン

カザフスタン

5. 中東 — アラブの4色とカタール・イスラエル

アラビア語を話すアラブの人々の国は、長くオスマン帝国の支配下にあり、そのあとイギリスやフランスなどに分けて支配されたため、今は別々の国になっている。それでも「一つのアラブ」への願いは根強く、1945年にできたアラブ連盟には今22の国が加わっていて、旗も互いによく似ている。**ヨルダン・パレスチナ・クウェート・アラブ首長国連邦**の黒・白・緑・赤は「アラブの色」と呼ばれ、昔のアラブの王朝の色を集めたもので、1916年にアラブの人々がオスマン帝国に対して立ち上がったときの旗がもとになっている。もう一つの系統は1952年の**エジプト**の革命の赤・白・黒で、**イラク・スーダン・シリア**は紋章や星で互いを区別している。**カタール**の旗は、幅が高さの2倍を超える唯一の国旗である。**イスラエル**はユダヤ人の国である。ユダヤ人は長いあいだ国土を持たずに世界各地に住んでいたが、第二次世界大戦のあとの1948年、ユダヤ人のふるさとであるパレスチナにイスラエルが建てられた。しかし、パレスチナに長く住んでいたアラブ人の多くが土地を追われ、アラブ人とユダヤ人の争いが今も続いている。旗もユダヤ教の祈りの布の縞と「ダビデの星」で、アラブの旗とは全く違う。

ヨルダン

パレスチナ

クウェート

アラブ首長国連邦

エジプト

イラク

スーダン

シリア

カタール

イスラエル

コラム　赤十字・赤新月・赤水晶 — 国旗ではない救護の印

戦争でけがをした人を敵味方なく助ける活動は、スイスの実業家アンリ・デュナンが戦場の悲惨さを見て始めたもので、1863年にスイスのジュネーブで赤十字の組織が生まれた。今では世界の約190の国に赤十字社・赤新月社があり、国際的な連盟にまとまっている。印の「赤十字」はデュナンの国スイスの旗の色を入れ替えたもので、1864年に決まった。1877年からのロシアとの戦争で、オスマン帝国は「十字はイスラム教徒の兵士になじまない」として赤い三日月＝赤新月を使い、今もイスラムの国々の救護組織の印になっている。イスラエルの救護組織の赤いダビデの星は長く認められなかったが、宗教に関係のない第4の印「赤水晶」が2005年に作られ、翌年イスラエルの組織が連盟に加わった。

赤十字※

赤新月※

赤水晶※

6. アフリカ — 緑・黄・赤

エチオピアは19世紀末、攻めてきたイタリアを破って独立を守った数少ないアフリカの国で、1897年に定めた緑・黄・赤は独立をめざすアフリカの国々のあこがれの色になった。1957年に独立した**ガーナ**が最初に緑・黄・赤を採り入れ、ガーナの黒い星は「植民地からの解放」を表す。**モザンビーク**の旗は銃を描いている唯一の国旗で、「銃を外そう」という議論が続いている。1994年の**南アフリカ**の旗は6色で、緑の Y の字は「ばらばらだった人々が合流して一つの道を進む」ことを表している。南アフリカの前の旗は、1652年にオランダ人がケープに入植したときに掲げたとされるオレンジ・白・青（オランダの最初の三色旗）を背景にして、1928年にその上へイギリスと2つのオランダ系の国の旗を並べたものである。

エチオピア

ガーナ

モザンビーク

ジンバブエ

南アフリカ

南アフリカ連邦（1950）

ナイジェリア

コンゴ民主共和国

モロッコ

7. 横三色旗 — オランダからロシア、東ヨーロッパへ

オランダの三色旗は、スペインからの独立戦争を率いたオラニエ公ウィレムの色から1570年代に生まれた。「オラニエ」は英語の「オレンジ」で、もとは南フランスの小さな領地の名前。はじめはオレンジ・白・青だったが、17世紀のうちにオレンジは赤に置きかわった（海の上では赤のほうがよく見えるためと言われる）。それでもオレンジは今もオランダの国の色である。今も使われている三色旗の中ではいちばん古い。この旗は東へ広がった。**ロシア**の皇帝ピョートルは、オランダで作らせた船がオランダの旗を掲げて届いたのを見て、色の順番を変えて自分の船の旗にしたと伝えられる。この白・青・赤はロシア革命のあと禁じられ、ソ連の赤旗の時代を経て1991年に復活した。1848年にはスラヴ系の人々の会議がロシアの白・青・赤を「スラヴの色」と定め、**クロアチア・ユーゴスラビア・チェコスロバキア**がこれに続いた。**セルビア**は「ロシアと同じ旗にしたい」と頼んで断られ、「では上下を逆に」と答えて赤・青・白になったと伝えられる。**ブルガリア**の白・緑・赤は、オスマン帝国からの独立をロシアに助けてもらった影響で、ロシアの旗の青を緑に替えたものと言われている。

オランダ（1581）※

オランダ（1650）

オランダ

モスクワ大公国（1700）

ロシア帝国（1913）

ロシア

クロアチア

ユーゴスラビア（1980）

チェコスロバキア（1928）

チェコ

セルビア

ブルガリア

ハンガリー

ルクセンブルク

8. 黒・赤・金と黒・白・赤 — 神聖ローマ帝国からドイツ・オーストリアへ

神聖ローマ帝国(今のドイツを中心にした昔の国)の旗は、金色の地に黒い鷲だった。帝国がナポレオンに解体されると、皇帝の家ハプスブルク家は自分の領地で**オーストリア帝国**を名乗り、黒と金を黒・黄の旗として受け継いだ。**オーストリア**の赤・白・赤は別の由来で、戦いで血に染まった白い服のうち、ベルトの下だけが白く残ったという伝説がある。ばらばらになった**ドイツ**では、ナポレオンと戦った義勇軍の黒い軍服・赤いふち・金のボタンから黒・赤・金が広まり、1848年の革命で「統一と自由」の色になった。しかし実際にドイツを統一したのは軍事国家**プロイセン**で、1871年にできた**ドイツ帝国**は、プロイセンの黒・白と北ドイツの港町の赤・白を合わせた黒・白・赤を使った。第一次世界大戦に負けてドイツ帝国が倒れると、**ワイマール共和国**は1848年の黒・赤・金を国旗にした。**ナチス・ドイツ**はこれを共和国の象徴として捨てて黒・白・赤に戻し、1935年にハーケンクロイツの旗を唯一の国旗にした。敗戦後、1949年に**西ドイツ**が黒・赤・金を復活させ、**東ドイツ**は1959年に西と区別するため国章を足した。


神聖ローマ帝国
(1520)


オーストリア帝国
(1820)


オーストリア＝
ハンガリー帝国
(1910)


オーストリア


プロイセン
(1786)


ドイツ帝国
(1913)


ワイマール共和国
(1928)


ナチス・ドイツ
(1938)


西ドイツ
(1980)


東ドイツ
(1980)


ドイツ

9. 縦三色旗 — フランス革命が広めた「自由の旗」

1789年のフランス革命で、パリ市の色(青と赤)に王家の白を足した三色の記章が生まれ、やがて**フランス**の国旗になった。王家の百合の旗に代わる「革命と自由の旗」として、**ベルギー**や**イタリア**など多くの国が三色旗を採り入れた。**イタリア**は王国になると三色旗の真ん中に王家の紋章を置いたが、第二次世界大戦中にムッソリーニが北イタリアに作った**イタリア社会共和国**は、自分を見捨てた国王の紋章を外して古代ローマ帝国の黒い鷲を描いた。戦争に負けると、独裁を許した国王への不信から国民投票で王政が廃止され、**イタリア**は紋章のない三色旗に戻った。**アイルランド**の旗は、緑がカトリック、オレンジがプロテスタント、白が「両者の仲直り」を表す。**ルーマニア**も1848年の革命でフランスにならい、二つの公国の紋章の色を縦に並べた。**ハイチ**の旗は、フランスの三色旗から「白人を表す白を引き抜いた」ものだと伝えられる。


フランス
(1700)


フランス帝国
(1812)


フランス


ベルギー


イタリア(1940)


イタリア
社会共和国
(1944)


イタリア


アイルランド


ルーマニア


ハイチ

10. 東ヨーロッパの二色旗

ポーランド・リトアニアは、16世紀に二つの国が合わさってできた、当時のヨーロッパで最も広い国の一つで、王を貴族の選挙で選んでいた。旗はポーランドの白い鷲とリトアニアの騎士を並べている。18世紀の終わりに周りの大国に領土を分け取られて消え、**ポーランド**が国として戻るのは1918年である。ポーランドの白と赤は紋章(赤地に白い鷲)の色。**ウクライナ**の青と黄は1848年に初めて掲げられ、1992年に復活した。**ベラルーシ**の白・赤・白は1918年の独立のときの旗だが、1995年の国民投票でソ連時代の赤と緑に戻り、白・赤・白は禁じられたあとも2020～21年の反政府デモなどで今も使われている。


ポーランド・
リトアニア
(1620)


ポーランド


ウクライナ
人民共和国
(1918)


ウクライナ


ベラルーシ
人民共和国
(1918)


ベラルーシ

11. そのほかのヨーロッパの旗

ヴェネツィアは海の上に築かれた都市国家で、地中海の貿易で栄え、千年以上も共和国として続いたが、ナポレオンに滅ぼされた。旗の翼のある獅子は、守護聖人マルコの印である。**バチカン市国**の黄と白は聖ペテロの金と銀の鍵の色で、スイスと並ぶ正方形の国旗。**カタルーニャ**の赤と黄の縞は中世の王家の紋章から来た、ヨーロッパで最も古い旗の一つ。赤いざざざざの斜め十字(ブルゴーニュ十字)は、**スペイン**が世界に広がった16世紀の副王領旗・軍旗である。今の**スペイン**の赤・黄は、1785年に国王カルロス3世が「海で見分けやすい旗」として選んだ海軍の旗から来ている。**ポルトガル**は、1910年の革命で共和派の緑(希望)と赤(血)に替えた。**モナコ**の赤と白は君主グリマルディ家の色で、インドネシアの旗と同じ2色である。**キプロス**はギリシャ系とトルコ系の人々が一緒に作った国なので、「ギリシャの青もトルコの赤も、十字も三日月も使わない」と決め、島の形と平和を表すオリーブの枝を描いた。島が銅色なのは、キプロスが昔から銅の産地で、国の名前も銅と結びついていると言われるため。**ヨーロッパ連合**の旗の12の星は加盟国の数ではなく、1年の12か月のように「ひとそろい」を表す数で、輪に並べて団結を表している。


ヴェネツィア
(1600)


バチカン市国


カタルーニャ


スペイン(1580)


スペイン


ポルトガル
(1800)


ポルトガル


モナコ


キプロス


ヨーロッパ連合
(EU)

12. 日の丸と太極旗 — 円の旗

日本の日の丸は古くから使われてきた印だが、江戸時代にはまだ国旗というものはなく、1854年に外国の船と区別する船の印として選ばれた。朝鮮では、1876年の日本との交渉のときに「見せる旗が無い」という出来事をきっかけに国旗づくりが始まり、太極旗が生まれた。太極旗は**大韓帝国**の国旗となり、今の**韓国**も受け継いでいる。**バングラデシュ**の旗は1971年の独立戦争のときの旗が元で、パキスタンの三日月と星をわざと避け、イスラムの色でもある緑の地に赤い円を描いた。**パラオ**の黄金の円は太陽ではなく満月である。


日本(江戸幕府)
(1700)


大日本帝国
(1942)


日本

大韓帝国
(1900)

韓国

バングラデシュ

パラオ

13. 中国の旗の移り変わり

明の時代には国の旗そのものが無かった(図は現代の想像図)。**清**の時代になって初めて国旗が作られ、皇帝の色である黄色の地に龍を描いた「黄龍旗」になった。1912年の**中華民国**の五色旗は、赤が漢族、黄が満州族、青がモンゴル族、白がイスラム教徒(ウイグル族など)、黒がチベット族を表し、「5つの民族が一つの国民になる」という願い(五族協和)が込められていた。**満州国**の旗は五色旗を作り変えたものである。**中華民国**は1928年から「青い空に白い太陽、赤い大地」の旗を使い、1949年に**台湾**へ移ったあとも、台湾はこの旗をそのまま使い続けている。同じ年に生まれた**中国**の五星紅旗は、次の「赤い旗と星」のグループにまとめた。

明(1600)

清(1790)

中華民国
(1912)

満州国
(1940)

中華民国
(1928)※

台湾

チベット(1930)

香港

14. 赤い旗と星 — 社会主義の国々

赤い旗は、19世紀のヨーロッパで労働者たちが平等な社会を求めて立ち上がったときに掲げた旗で、社会主義のしるしになった。1917年のロシア革命で生まれた**ソ連**は、赤い旗に農民のかまと労働者のハンマー、そして星を描いた。同じ考えの国が、赤い旗に星を描く形を受け継いだ。**中国**の五星紅旗は、大きな星が共産党、小さな4つの星がそのまわりに集まる人々を表す。**ベトナム**の金星紅旗は1940年の蜂起で初めて使われ、星の5つの先端は知識人・農民・労働者・商人・兵士を表す。**北朝鮮**は1948年に、太極旗ではなく赤い星の旗を定めた。**モンゴル**は1992年に社会主義をやめ、国旗から星を外した。

ソビエト連邦
(1962)

中国

ベトナム

北朝鮮

モンゴル

15. そのほかのアジアの旗

インドの旗は、独立運動の指導者ガンディーが最初に頼んだ旗が赤(ヒンドゥー教徒)と緑(イスラム教徒)に糸車を描いたものだったが、「ほかの宗教の人が入っていない」と気づいて、平和を意味する白を足した。**スリランカ**の旗は、1948年の独立のときは獅子だけの旗だったが、人口の多い仏教徒だけでなく、少数派のタミル人を表すオレンジとイスラム教徒を表す緑の縞をあとから足した。**インドネシア**の赤と白は、13世紀の王国の旗にさかのぼる色で、モナコの旗と同じ2色である。人口の9割近くがイスラム教徒だが、国教は定めず、憲法で複数の宗教を対等に認めている。300を超える民族が暮らし、国の標語は「多様性の中の統一」。イスラム教徒が多い国の救護組織はたいてい「赤新月」を印にするが、インドネシアは「赤十字」を使い続けている数少ない国である。**シンガポール**の三日月は「のぼっていく若い国」、5つの星は民主・平和・進歩・正義・平等を表していて、イスラム教とは関係がない。**ネパール**の旗は、四角形でない唯一の国旗である。**タイ**は1917年に象の旗から三色旗に替えた。象の旗がさかさまに掲げられているのを国王が見て、上下対称の旗にしたという逸話がある。

インド

スリランカ

インドネシア

シンガポール

ネパール

タイ

ミャンマー

カンボジア

フィリピン

南ベトナム
(1970)

16. 中南米の独立の旗

スペインからの独立で生まれた**大コロンビア**の黄・青・赤は、独立運動家ミランダが1806年に掲げた三色旗の色で、大コロンビアが分かれてできた**コロンビア**・**ベネズエラ**・エクアドルも受け継いでいる。水色と白は**アルゼンチン**の将軍が1812年に作った旗の色で、南米の独立の象徴として広がった。アルゼンチンの独立軍に助けられた**中央アメリカ連邦**はこの色を取り入れ、解体後の5か国も使い続けている。もともとアルゼンチンと同じ国だった**ウルグアイ**も、水色と白、そして旗の「五月の太陽」を受け継いだ。**パラグアイ**の旗は表と裏で紋章が違う。**ブラジル**の緑と黄は皇帝と皇后の家の色で、青い円は共和国が生まれた朝の星空、星の数は州の数を表す。**パナマ**と**チリ**は、独立のときにアメリカから支援を受け、旗も星条旗の影響を受けたと言われている。**メキシコ**の緑・白・赤はフランスの三色旗とは由来が別で、1821年の独立軍の旗の色である。

大コロンビア
(1823)

コロンビア

ベネズエラ

アルゼンチン

中央アメリカ
連邦(1830)

ウルグアイ

パラグアイ

ブラジル帝国
(1880)

ブラジル

パナマ

チリ

メキシコ

ペルー